

一般財団法人
山鹿市地域振興公社

経営状況説明書

令和4年度の決算に関する書類

1 事業報告書

2 決算報告書

(1) 収支計算書

(2) 正味財産増減計算書

(3) 貸借対照表

3 財産目録

令和4年4月1日から令和5年3月31日

1 総括事項

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき設立認可された一般財団法人山鹿市地域振興公社の令和4年度事業実施に当たり、山鹿市の「公の施設」5施設の指定管理を引き続き受託し、市民サービスの向上、福祉の増進に努めるとともに、市民の文化・観光及びスポーツ振興の積極的な推進を図った。さらに、コロナ禍の影響により昨年度変更を行った公益目的支出計画に基づく公益目的事業等を展開し、利用者の満足度向上に努めた。

また、受託施設においては、利用者やスタッフのため、新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底を図りながら安心安全な施設管理に努めるとともに、自主事業を実施・再開し、併せて広報等による誘客及び利用促進を図ったが、年間を通じて行動制限は行われなかったものの、コロナ禍前までの回復には至らなかった。

また、利用料金収入減少による影響を軽減するため、前年度同様、国の雇用調整助成金等も活用したが、ウクライナ情勢や円安による光熱費や資材価格等の高騰により、あらたな厳しい状況にも直面することとなった。

2 事業の内容

(1) 自主事業・公益目的事業

ア 文化振興・福祉向上事業

- (ア) 観光都市やまがをPRする人材育成を図るため毎年実施している「山鹿市旅先案内人養成講座」は新型コロナウイルスの影響等により中止となったが、山鹿を訪れる観光客の受け入れ態勢の充実を図るため、灯籠紙の原料となる楮や和紙について学ぶための研修会を行った。
- (イ) 山鹿市旅先案内人の会による土・日祝日の山鹿灯籠民芸館内でのボランティア案内について、年間を通して、新型コロナウイルスの感染状況等を見ながら可能な範囲での活動を行った。
- (ウ) 八千代座において、狂言・子ども歌舞伎教室を開催する「八千代座文化講座事業」は、本年度も公社事業として継続実施し、本市の文化振興と地域に根ざした舞台芸術の継続を図った。発表会については、狂言は実施できたが、子供歌舞伎は新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。
- (エ) 八千代座において、かつて映画館でもあったその歴史的役割と、地域で失われた映画鑑賞の機会の提供を目的に、優秀映画鑑賞事業として平成20年(2008年)から行ってきたが、開催日が台風接近による臨時休館となったため中止した。
- (オ) 八千代座を活用し、教育活動としての演劇発表会への支援や映画や舞台芸能などを地域の方々と協働で実施することにより、山鹿の地域文化の振興と文化による子ども達の育成を図る「八千代座次世代子ども文化育成事業」として22年目となる山鹿小学校演劇発表会を支援した。

- (カ) さくら湯において、年中行事として定着した「菖蒲湯」「ゆず湯」を実施したほか、「母の日」の企画湯については次回無料入浴券の配布を行った。「父の日」については、さくら湯補修工事期間中のため実施せず、「敬老湯」については、台風接近による臨時休館のため中止した。新規としてペアで入浴する方を対象に割引を行う「七夕湯」を行った。
- また、さくら湯竣工150周年を記念した自主事業として、開湯まつりにあわせ、さくら湯の歴史や入浴マナーを学ぶ「子ども入浴教室」の実施、山鹿温泉が復活した12月20日にちなみ、毎月20日を「子ども入浴無料デー」として温泉地の歴史を伝え温泉に親しんでもらう取り組みも行った。
- (キ) さくら湯において、市内小・中学校の長期休暇に合わせ実施している子ども入浴無料の「早起き朝湯」事業について、入浴回数に応じた特典付きスタンプカードを導入し参加者の増加を図った。
- (ク) さくら湯において、歴史ある山鹿温泉の元湯としての「温泉情緒」醸成のための取り組みとして、時季に応じた風鈴や簾、七夕飾り、門松などの設置を行い、利用者・観光客に季節感を感じてもらい取り組みを行った。
- また、温泉水を活用した商品開発として取り組んでいる冬場の「温泉柿」の試作製造についても引き続き行った。
- (ケ) さくら湯において、山鹿市とともに企画から取り組んでいる着地型観光商品・山鹿あそびの「灯籠温泉卓球」については継続して実施した。
- また、池の間を活用した作品展示や音楽コンサート、やまが温泉落語等を開催する「池の間企画展」については年間を通して開催し、施設の活用による賑わいづくりを図った。
- (コ) さくら湯において、引き続き八千代座、山鹿灯籠民芸館、山鹿市立博物館、清浦記念館の入館券の提示による割引を実施し、観光客へのサービスの向上を図るとともに、観光協会などと連携し、市内で開催されるスポーツ大会の関係者や出場者に向けたPRを行うなど、山鹿市全域での回遊性の向上と入浴者の増を図った。
- (サ) カルチャースポーツセンターにおいては、新型コロナウイルスの影響による施設閉鎖等はなく、各競技団体が新型コロナウイルス感染症運営ガイドランスに沿った利用を行うなど、中止となった大会はなかった。
- また、フィットネスプログラムやトレーニングジムの運営については、開催場所を広めにとり、検温・アルコール消毒を継続実施し、感染対策に努めた結果、施設利用人数は増加に転じた。
- (シ) カルチャースポーツセンターにおいて、九州アジア独立プロ野球公式戦およびオムロンピンディーズの日本ハンドボールリーグについては、新型コロナウイルスの影響を受けることなく予定された全ての試合が開催された。また、他会場でコロナ禍の影響により中止となった九州アジア独立プロ野球公式戦やハンドボール日本リーグの代替試合も実施された。
- 開催情報の発信等についても、施設HPや社会体育課と連携し「やまがメイト」での情報提供を積極的に行うことができた。
- (ス) カルチャースポーツセンターにおいて、年度中盤より各種大会で有観客

開催が増加したため、飲食業者やキッチンカー業者に出店依頼を行い、14店舗が飲食物の販売を実施した。出店目的である施設利用者の昼食等への対応については、若干ではあるが利便性の改善ができた。

- (セ) カルチャースポーツセンターにおいて、「C S Cカップ少年野球大会、小学生ハンドボール大会」、本年度より新たに「中学生ソフトテニス大会」を開催した。開催目的である選手のレベルアップについて、開催時期・内容については指導者からも好評を得ており、今後も継続開催に向けた改善を図る。
- (ソ) 山鹿灯籠民芸館において、令和4年度にさくら湯竣工150周年を迎えるにあたり、さくら湯をテーマにした常設展を企画し、徳永灯籠師の名作「さくら湯」を展示し、さくら湯との連携による相乗効果を図りながら、観光客の回遊性の向上を図った。
- (タ) 山鹿灯籠民芸館において、九州豪雨で被害を受けた青井阿蘇神社の復興を願うため、特別企画展として坂本ゆかり灯籠師の作品を展示した。併せて、ホームページやSNS等を活用した情報発信を行った。
- (チ) 山鹿灯籠民芸館において、国の伝統的工芸品山鹿灯籠への理解を深め、その優れた技術を身近に感じて頂くため、山鹿灯籠振興会の「制作キット」を用いた制作体験ワークショップを行った。
- (ツ) 山鹿灯籠民芸館において、山鹿灯籠の歴史や魅力を観光客へより効果的に発信するため大宮神社と連携し、燈籠殿と民芸館との入館者割引を相互に行った。
- (テ) 市民交流センターのホワイエを活用し、山鹿灯籠師後継者卒業作品展や山鹿の写真展並びに公民館講座作品展、熊本県や山鹿市関連の各コンクール等での入選作品展や市文化協会作品・花展等を開催するとともに、新型コロナウイルスの感染状況等を見ながら、イベント開催時に商店街と連携したコンサートも実施した。
さらに、施設の備品を活用し、文化ホールでの演奏会の雰囲気を経験する「コンサートピアノを弾いてみませんか」については今年度から年2回実施し、施設の特性を活かした魅力発信事業を実施した。
- (ト) 市民交流センターにおいて、新型コロナウイルスの影響により、こもれび図書館の「図書館まつり」が中止となったが、今年度は新たに山鹿市おはなし（読み聞かせ）ボランティアグループ連絡協議会と連携し、「おはなしの小道具を作ろう・おはなし会」を実施した。
- (ナ) 市民交流センターの文化ホールの新たな活用として、市内の小中学校等の部活動を対象に、練習の場所としての提供を行いながら、子ども達のコンクールや大会への出場支援を行うとともに芸術・文化の育成を図った。
- (ニ) 市民交流センターにおいて、文化ホールを活用し、いろんなジャンルの音楽を当ホールの優れた音響設備をとおして聴いていただく「CD鑑賞会」を開催し施設の魅力を発信した。
- (ヌ) 市民交流センターの文化ホールを活用し、山鹿の地域性を取り入れたオ

オリジナルの肥後にわか公演を制作し、さくら湯竣工150周年記念に併せて開催し、また、コロナ禍の影響により減少していた市内での舞台鑑賞の機会を提供するとともに、市民にあらためて舞台芸術の素晴らしさや楽しさを感じてもらい取り組みを図った。

イ 文化・スポーツ等の情報提供に関する事業

- (ア) 廃刊した山鹿市名刺録の代替措置としてデジタル名刺録の運用を行った。
- (イ) 公社ホームページ「山鹿ガイド」を活用した各施設の情報発信を行った。

ウ その他の関連事業

- (ア) 観光名刺台紙やオリジナルグッズの制作・販売を行った。
- (イ) 国の伝統的工芸品「山鹿灯籠」の魅力や、灯籠師の優れた技術を知っていただくため、山鹿灯籠をモチーフとした手持ち灯り等の販売を行った。
- (ウ) 山鹿市全域の観光情報等を発信する観光案内所及び観光レンタサイクルの充実を図った。

(2) 受託事業

次の各施設の管理運営及び受託業務にあたった。

「指定管理者制度施設」

- ア 八千代座等
- イ 山鹿市さくら湯
- ウ 山鹿市カルチャースポーツセンター
- エ 山鹿灯籠民芸館
- オ 山鹿市民交流センター

「受託業務」

- ア 山鹿灯籠踊り保存会及び観光振興業務
- イ 山鹿市立博物館の受付業務
- ウ 山鹿市情報発信拠点創り事業

3 事業収入に関する事項

公社の基本財産30,000,000円の運用利息600円、文化振興福祉向上事業費収入(公益目的事業収入)206,000円、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業費収入及びその他の関連事業収入391,290円、「公の施設」管理運営等の指定管理料及び利用料金210,650,248円、雑収入17,311,409円、当期収入合計228,559,547円、前年度繰越金73,969,659円(基本財産3,000万円含む)を加えた公社事業費総収入額は、302,529,206円であった。

4 事業支出に関する事項

自主事業(文化振興福祉向上事業、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業、その他の関連事業)経費1,335,482円(公益目的事業含む)、「公の施設」管理運営等に伴う経費201,644,958円(公益目的事業含む)、管理費(公社事務局運営費)7,817,018円、特定預金支出5,906,000円、租税公課10,906,400円、公社事業費支出費総額は227,609,858円(内公益目的事業費1,304,349円)であった。

5 その他の事項

令和4年度当期収支差額は、949,689円、令和5年度(2023年度)への繰越金は、74,919,348円(基本財産3,000万円含む)である。